

# WordPress の記事やサイトを非公開にする方法 2 つを紹介

<https://www.sejuku.net/blog/62544>

## なぜ非公開にするべき？

非公開にする理由はただ一つ、ユーザーに見られたくない時ですね。



例えば、下記のような状態の時です。

- まだサイト、記事が作り途中な時
- 記事を修正している時
- 記事の公開は終了したいけど、データとして残しておきたい時
- サイトにエラーが表示され、すぐに解消できない時

etc...

このようにサイト内に不備がある状態だと、ユーザーは「このサイトの情報は正しいのだろうか」という疑問を持ってしまう。ユーザーに正しく情報を伝え、安心して閲覧できるサイトにするために、非表示を使うのが効果的です。では、早速どのように非表示にしていけるのかを見ていきましょう。

## サイトを非公開にする方法

まずはサイトそのものを非表示にする方法です。これはプラグインを使う方法と、Basic 認証を使う方法の 2 つがあります。

それぞれ細かく見ていきましょう！

### プラグインで非公開

WordPress と言えば豊富なプラグインが特徴ですね。そんなプラグインの中に、サイトを非表示にするプラグインも存在しています。

今回はその中から WP Maintenance Mode をご紹介します。

Visual customizer - change texts, colors, backgrounds...  
Responsive ready - mobile friendly  
Newsletter subscriptions - export emails to a .csv file  
Bot - collect the emails in a friendly and efficient way  
Contact form - receive emails from visitors  
Social media icons - facebook, twitter, pinterest...  
Countdown - live timer  
Works with any WordPress theme - free and premium  
Exclude URLs - from maintenance mode

WP Maintenance Mode  
作者: Designmodo

ダウンロード

引用元: WORDPRESS.ORG <https://ja.wordpress.org/plugins/wp-maintenance-mode/>

WP Maintenance Mode は、WordPress にメンテナンスモードという機能を追加するプラグインです。

メンテナンスモードを有効にすると、設定した文言やデザインを表示した上で、サイトを非表示にすることができます。

現在メンテナンス中です

一言コメントを入れられるので、ユーザーも「なぜサイトが見られないのか」がわかって安心ですね。

詳しい使い方は、下記の記事などを参照してみてください。

<https://netaone.com/wp/wp-maintenance-mode/>

## Basic 認証で非公開

エラーになっちゃって、そもそも管理画面に入れない！

なんて時には、**プラグイン**を使うことができませんね。そんな時は **Basic 認証**で非公開にしちゃいましょう。

Basic 認証は「.htaccess」と「.htpasswd」という2つのファイルを使って、サイトにパスワードをかける方法です。

設定すると、サイトにアクセスした時に下記のような入力画面が表示されます。

ここで正しいユーザー名とパスワードを入れないと、サイトが表示されない状態にできるのです。

ファイルの準備が必要だったり、ちょっとコードを用意したりする必要がありますが、きちんと手順を踏めばそんなに難しくはありません。

下記の記事で詳しく解説しているので、**緊急時**などにはぜひ活用してください。

>>[初心者でもできる！Basic 認証の設定方法を解説している記事](#)

## 記事を非公開にする方法

サイト自体には問題ないけれど、この記事だけ非表示にしたい！

という時は、WordPress の機能を使えば簡単に設定できます。

投稿画面の右、投稿日などを入力する部分がありますね。

「公開」の横の編集というリンクをクリックすると...



公開状態の設定が表示されます。

ここで非公開を選んで保存すれば、ユーザーはこの記事を見ることができなくなります。



## 非公開と下書きの違い

WordPress の記事をユーザーが見れない状態は、非公開だけではありません。

新しい記事を作っている時、右のサイドバーにこんなボタンが表示され、ステータスが下書きになっています。



下書き、つまり書き途中や確認待ちの状態ということですね。

下書きになっていても、ユーザーはこの記事を見ることができません。

非公開とちょっと違うのは、下書き状態だと青いボタンが「公開」になることです。



公開ボタンを押すと、記事は当然のことながら公開状態となります。

直している最中に一旦保存したい...という時にうっかり押しちゃうと焦っちゃいますね。

非公開と下書きをどう使い分けるのかは、そのサイトの運用方針次第です。

うまく使い分けてみてくださいね。

## 非公開なのに表示されちゃう時は

サイトや記事を非公開にしたはずなのに表示されちゃう！...という時は、慌てず騒がず一旦 WordPress をログアウトしてみたり、シークレットモードで表示してみたりしてみてください。

ちゃんと非表示になっていることが確認できるはずです。

プラグインでサイトを非表示にした時や記事を非表示にした時は、管理者だけにはサイトや記事が見れる状態になっています。

修正した状態を確認できるようにという配慮ですね。

安心して修正作業を進めちゃいましょう！

## プラグイン不要？ Basic 認証で WordPress アクセス制限をかける方法

<https://www.sejuku.net/blog/59896>

WordPress でサイトやブログを作っていて、

**サーバーに資料をおいておきたいけど、まだ公開したくない！**

なんてこと、ありませんか？今回はそんな時に使える、サイト表示時にパスワードを入れる設定、Basic 認証について解説していきます。

この記事は下記の流れで進めていきます。

- 【基礎】Basic 認証とは何か
- 【基礎】Basic 認証の設定方法
- 【基礎】サーバーの管理画面での設定
- 【基礎】プラグインでの設定
- 【発展】htaccess での設定

## Basic 認証とは？

Basic 認証は、ブラウザ上でサイトやブログを表示した際、ユーザー名やパスワードを入力したら表示するようにできるものです。Basic 認証をかけたサイトにアクセスすると...

このように、ユーザー名とパスワードが求められます。きちんと入力すれば、そのページは普通に表示できますが、入力できないと...



You need to enter a Username and a Password if you want to see this website.

このように表示され、ページは表示されません。これを使うことで、まだ公開したくないページなどの閲覧を制限することができるわけです。

## Basic 認証の設定方法 3 つ

WordPress における Basic 認証の設定方法は主に 3 つあります。

- ・使用しているレンタルサーバーの管理画面で設定
- ・WordPress のプラグインで設定
- ・htaccess を作成して設定

それぞれどんな特徴があるのか、どのように設定するのかは、後ほど説明していきます。初心者には一番おすすめののは、**レンタルサーバーの管理画面での設定**です。設定が簡単で、手間も少ないので、サクッと設定できちゃいます。

htaccess での設定は、少しコーディングの知識が必要になる場面があります。自信がない方は、レンタルサーバーでの設定を行なう方が楽チンです。

## レンタルサーバーの管理画面で設定する

WordPress は、WordPress だけあってもサイトやブログとして公開することはできませんね。必ず資材を配置するサーバーが必要になります。サーバーの種類も色々ありますが、今回の説明では長くなっちゃうので割愛します。そんなサーバー、レンタルして使っている方も多いと思います。その管理画面で Basic 認証が設定できるわけです。

### 特徴

1 番の特徴は、とにかく設定が楽チンなことです。管理画面で設定ページを開いて入力するだけなので、難しいこともなくサクッと設定できちゃいます。

管理もそのまま管理画面で可能なので、ちょっとパスワード変更したいなーという時でもすぐにできます。この手軽さがあるので、WordPress 初心者の方には超おすすめです。

ただし、自前でサーバーを立てている場合は、そもそも管理画面というものが無いので使うことができません。また、レンタルサーバーによっては対応していない可能性もあります。使用する際は、マニュアルなどで確認するようにしましょう。

### 設定方法

レンタルサーバーの管理画面での設定は、各レンタルサーバーによって違います。大体は下記のような流れのことが多いです。

- 1.管理画面で Basic 認証設定のページを開きます
- 2.必要項目を入力します
- 3.完了ボタンを押します
- 4.正しく Basic 認証がかかっているかを確認します

どこに Basic 認証用の設定ページがあるのかなど、細かい点については、使っているサーバーのマニュアルなどを確認してみてください。

【参考: マニュアル等】

<https://help.sakura.ad.jp/206207041/>

[https://www.itocc.com/blog/sakura\\_basic-authentication/](https://www.itocc.com/blog/sakura_basic-authentication/)

## WordPress のプラグインで設定する

WordPress といえば豊富なプラグインが特徴ですね。もちろん Basic 認証の設定をするプラグインも存在しています。こちらでも手軽で使いやすい方法ですね。

### 特徴

WordPress 側から設定を行なうので、サーバーの管理画面などは必要ありません。つまり、自前サーバーでもレンタルサーバーでも、気にせずに使うことができます。

プラグインを入れる手間はありますが、入れてしまえばこっちのもの。あとは簡単に設定することができます。

### 設定方法

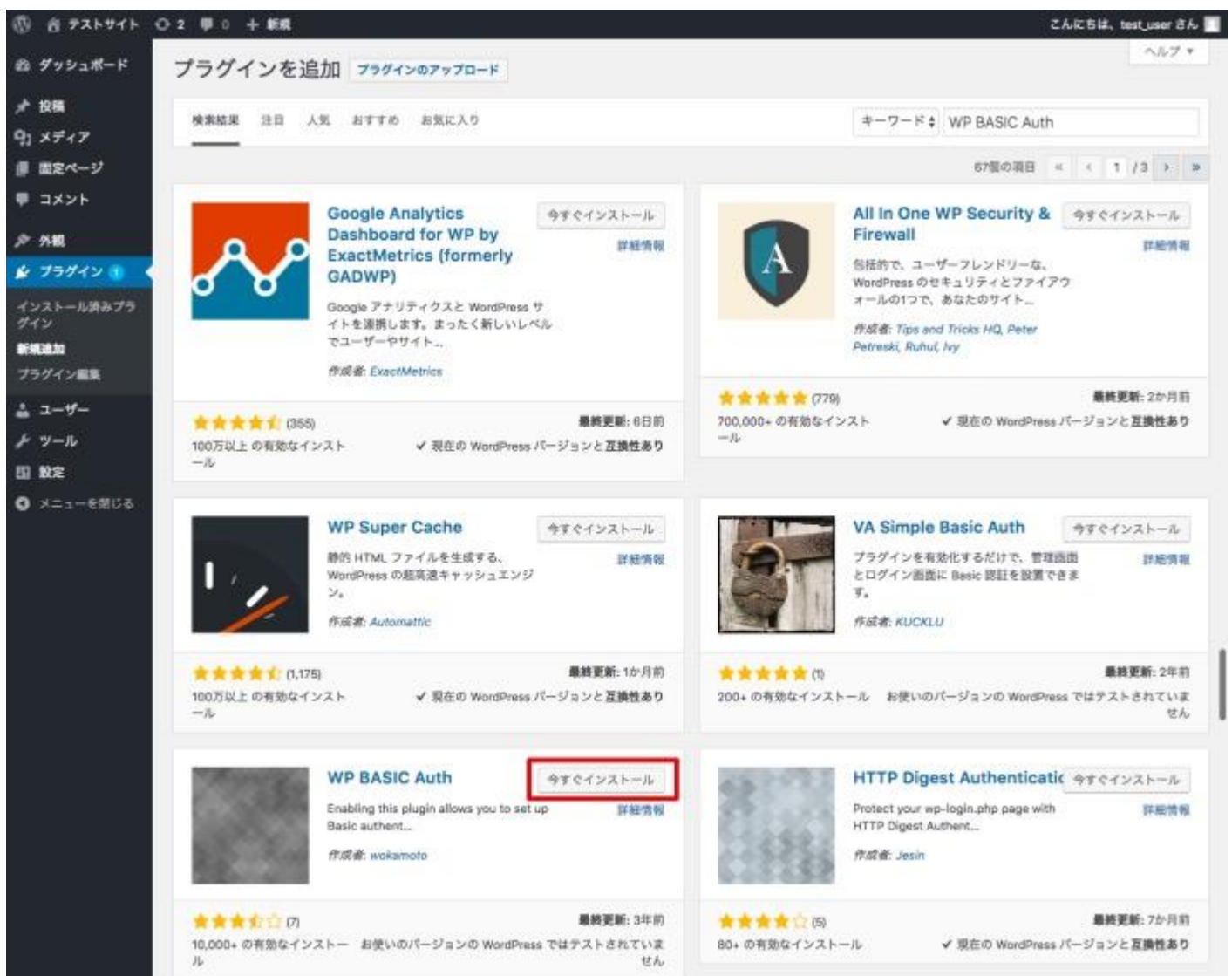
細かい設定は、やはりプラグインごとに違ってきます。各プラグインのマニュアルなどを参照してみてください。今回は Basic 認証をかけられるプラグインのひとつ、WP BASIC Auth を使ってみましょう。

引用元: Wordpress <https://ja.wordpress.org/plugins/wp-basic-auth/>

このプラグイン最近ではアップデートがありませんが、現在でも問題なく使うことができます。今後使えなくなる可能性も考えられますが、手軽に使えるのでオススメです。

### プラグインをインストールする

最初にして最大の準備、プラグインの用意からいきましょう。プラグインの新規追加画面で、WP BASIC Auth を検索してインストールします。

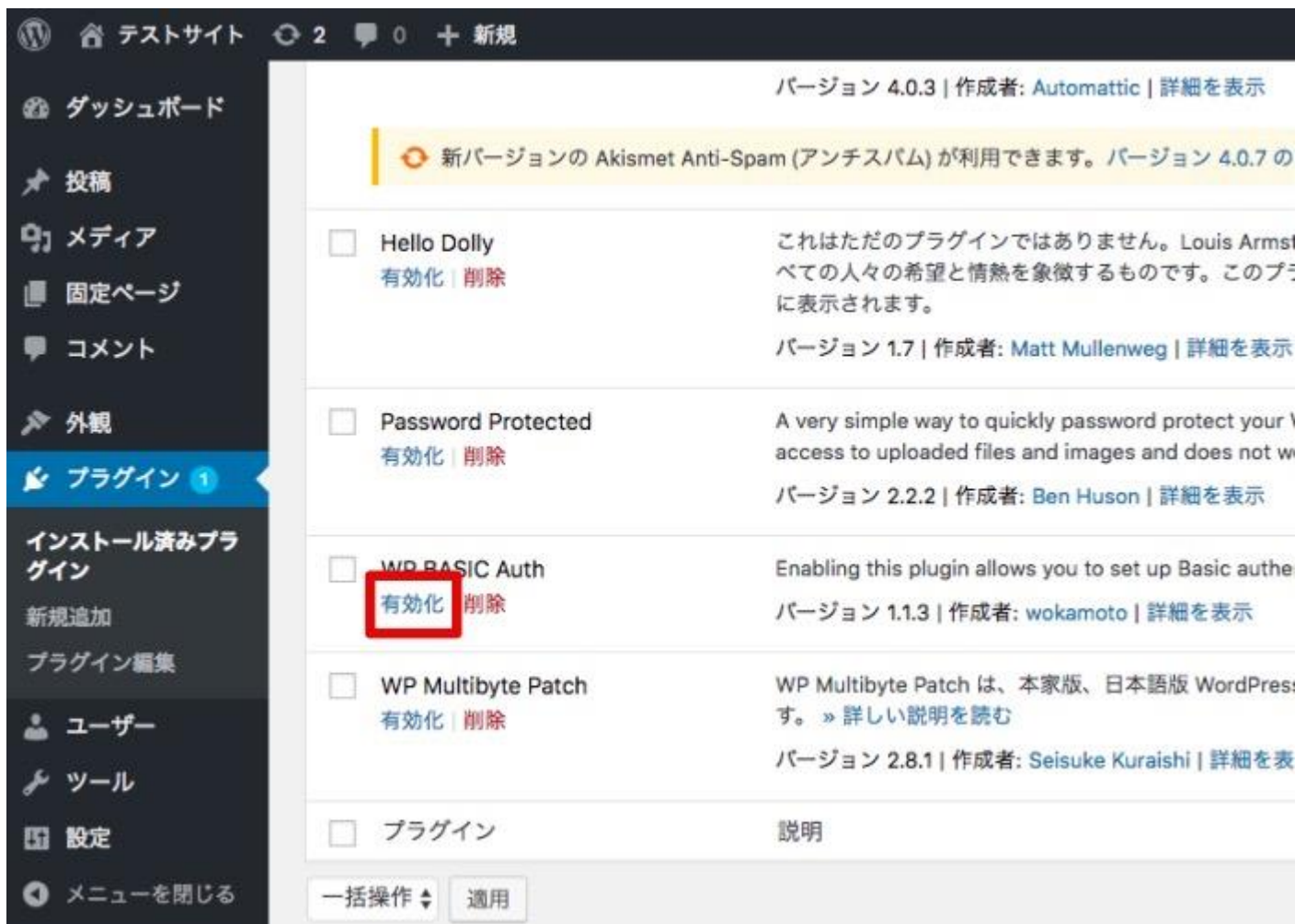


プラグインの入れ方をもっと詳しく知りたい！という方は、下記の記事で確認してみてください。

引用元: techacadem y <https://techacademy.jp/magazine/1384>

## プラグインを有効化する

プラグインはインストールしただけでは力を発揮しません。機能を有効化しちゃいましょう。方法は簡単、該当のプラグインの有効化をクリックするだけです。



これだけです！簡単ですね。

## ユーザー名とパスワードを設定する

最後に Basic 認証のユーザー名とパスワードを設定するのですが...

WP BASIC Auth ではこの作業が必要ありません。このプラグインは、WordPress の管理画面へのログイン情報と同じ内容で、自動的に Basic 認証をかけてくれるのです。...なので、有効化してしまえば設定は終了になります。WordPress にログインしていない状態で、ページを開いてみましょう。

## htaccess で手動で設定する

レンタルサーバーでの設定ができない...

プラグインもあまり使いたくない...

そんな時は、もう全部手動で設定しちゃいましょう。

**htaccess**、**httpasswd** という 2 つのファイルを、自分で用意して設定する方法です。今まで説明したものは、この二つを自動的に生成してくれていたわけですね。

### 特徴

コードを直接書くので、多少難易度が高い方法になります。ファイルを準備したり、記述するコードを用意したりと、準備も色々必要です。

しかし、管理画面やプラグインを使わずに実装できるのが魅力です。レンタルサーバーでも自作サーバーでも、どんな時でも使えちゃいます。サーバーによっては htaccess を使えない場合もあるので、そんな時はプラグインなどで対応するようにしましょう。

## 設定方法

htaccess の設定はややこしいので、ちょっと細かくみていきましょう。

### htpasswd ファイルを作る

まずはユーザー名とパスワードを記述する、htpasswd ファイルを作っていきます。テキストエディタなどで「.htpasswd」というファイルを作成します。

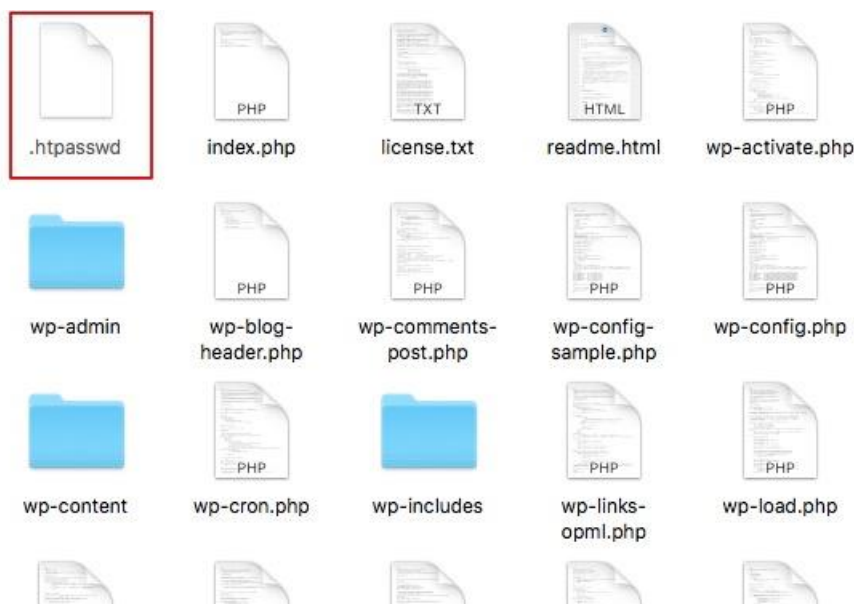
このファイルは、下記の点に注意してください。

- 頭にドットをつけてください
- 後ろに拡張子(.txt や.html など)をつけないでください

記述する中身は、パスワードを暗号化しておく必要があります。下記のようなジェネレーターで手軽に作っちゃいましょう。  
.htpasswd 生成ツール(MD5 対応)

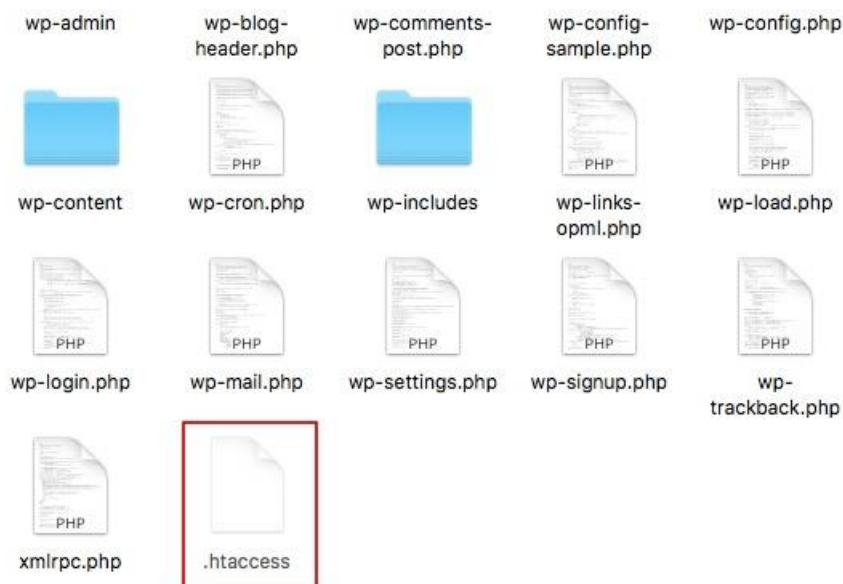
引用元: EN-PC <https://www.en-pc.jp/tech/htpasswd.php>

ユーザー名とパスワードを入れて、生成されたものを「.htpasswd」にコピーすれば OK です。これで「.htpasswd」というファイルを作ることができました。作ったファイルは、WordPress フォルダの wp-admin と同じ場所に入れておきましょう。



### htaccess に記述を追加する

htpasswd はユーザー名とパスワードを入れておくだけのファイルです。これを使った認証自体の設定は、htaccess に記述します。WordPress のフォルダの wp-admin と同じ場所に、「.htaccess」というファイルがあります。



これを開いて、すでに記述されている内容の上に、下記のように記述します。

```
1. AuthUserfile /ルートディレクトリからのフルパス/.htpasswd
2. AuthGroupfile /dev/null
3. AuthName "Please enter your ID and password"
4. AuthType Basic
5. require valid-user
```

細かい説明をするとややこしくなっちゃうので、この記事では解説しません。一つ一つのコードの意味は、下記の記事などで確認してみてください。

引用元: Qiita <https://qiita.com/yuwaita/items/e406c645ae8d0cc3c3fa>

これで設定完了です。ページを開くと、ユーザー名とパスワードを求められます。

## きちんと動作しなかった時は？

htaccess の設定は自由度が高い分、ちょっと難易度が高いですね。つまづきそうなポイントについて、一問一答方式でお答えしちゃいます！

【「.htaccess」や「.htpasswd」が見つからない】頭文字がドットのファイルは、普段は見えないようになっている隠しファイルというものになります。なので、何も設定をしていないと、ファイル自体が見つけられません。

下記の記事などを参照の上、隠しファイルを表示してみてください。

Windows の場合

引用元: Windows10 サポート <http://www.wannko.net/windows10/kihon/file.html>

Mac の場合

引用元: Qiita <https://qiita.com/TsukasaHasegawa/items/fa8e783a556dc1a08f51>

【ユーザー名やパスワードを入れてもサイトが表示できない】

もしかしたら、設定した時のパスワードなどを間違えてしまっているかもしれませんね。

再度設定してみて、正しいユーザー名とパスワードを入れてみましょう。

【もう一度設定してもうまくできない！】

パスワードの暗号化には、いくつか種類があります。サーバーによっては対応していない種類があったりするので、マニュアルなどで確認してみましょう。

【対応していない種類の暗号化だった場合】

ジェネレーターで別の種類の暗号化に変えて、再度試してみてください。

### localhost:80にログイン

パスワードは暗号化されずに送信されます。

☐ このパスワードを保存

キャンセル

ログイン

しっかり Basic 認証がかかっていることが確認できます。